

平成26年度茨城県立竜ヶ崎第一高等学校自己評価表(全日制)

目指す 学校像	歴史と伝統を誇る重厚な校風の中で、文武両道の精神を継承し、豊かな教養と英知を備え、地域社会をはじめ国際社会に貢献しうる有為な人材の育成に努める。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>本校に相応しい「文武両道」を目指しながら、生徒の希望進路の実現に向けて継続的・組織的指導を実践することにより、今年度も現役浪人を合わせて国公立大合格者数で100名を維持することができた。また、多くの部活動が県外大会出場を果たし、引き続き総合体育大会の総合上位校の表彰を男女とも受けることができた。</p> <p>本校の三大プロジェクトである「Rプログラム」「筑波大学研究委員会」「R-MASTプロジェクト」に加えて、本年度から文科省のスーパーサイエンスハイスクールの指定されることになったので、外部機関との連携に取り組み理数系教育を充実させていき、自ら課題を設定し探究していく力を伸ばしていく必要がある。</p> <p>教員の側としては、学習指導要領の改善事項を適切に反映させるとともに、観点別学習状況の評価を推進すると同時に、授業力の向上をさらに目指す。</p>	学力の向上を図り学習指導の強化を推進する。	(1)文科省から指定されたSSH事業をスムーズにスタートさせ、計画的・継続的取り組みで、特に理数分野での生徒の意識改革及び意欲の高揚を図る。 (2)組担任・教科担任による個別面談により生徒の状況を把握し、教員と生徒との良好な人間関係を通して学習効果を高める。 (3)定期・実力考査で学力を鍛える。各考査や各模擬試験の事前事後指導を適切に行い、各種補強学習を計画的・継続的に実施し、弱点克服・自信強化に努める。生徒には常に高い目標意識を持たせる。 (4)授業研究・授業公開を活発化させ、指導スキルの向上と生徒の学力向上に努める。	B
	学習習慣を確立させ基礎学力の定着を図る。	(1)高い指導スキルにより授業内容の工夫と充実を図り、家庭学習の定着に努める。 (2)習熟度の把握及び学力の分析に努め、先取りした効果的な指導を展開する。 (3)学年にこだわらず、教科間の連携による学習指導を進める。特に、初期段階指導を重視する。	A
	進路指導を充実させ希望進路の実現に努める	(1)有効な資料の収集・活用に努め、時宜に即した適切な進路指導や効果的な指導助言を行い、生徒の持てる能力を最大限に伸ばす。 (2)高い目標達成の意識を持たせ、最後まであきらめずにチャレンジし続ける心を養う。(数値目標:東大・京大複数合格、医学・難関理工系国立大10名以上合格、筑波大20名以上合格、国公立大100名以上合格) (3)学年間・教員間の連携を深め、広い視野から組織力・協働力で効果的に進路指導を進める。	B
	基本的な生活習慣の確立と豊かな心の育成に努める。	(1)「凡事徹底」当たり前のことを当たり前でできる生徒の育成に努め、あいさつの励行、清掃の徹底、規範意識の浸透、豊かな心の育成等により明朗な校風づくりに努める。 (2)教員間の協働態勢・共通理解による指導を推進し、教師と生徒の信頼関係の構築に努める。 (3)心の悩みや問題行動の早期発見・早期解決に努める。	B
	体育・スポーツ活動を奨励し心身の陶冶と体力向上に努める。	(1)文武両面において、前向きに取り組める生徒を育成する。 (2)部活動を奨励し、生徒の研究心や自発性、さらに自ら工夫する能力を高め、限られた時間内で最大限の効果を図れる練習方法を確立する。目標を明確にし、計画的な活動を実践する。 (3)部活動や諸学校行事への積極的な参加を促し、同じ学舎でこそ生まれる相互理解や相互尊重の精神、愛校心や竜ヶ崎一高生としての自信と誇りを育む	A
	国際社会で活躍できる能力を開発し、広い視野を持つ人材の育成に努める	(1)昨年度までの「英語によるディベートチャレンジ校」としての取組を発展させ、英語によるプレゼンや英語検定の促進していく。 (2)海外への修学旅行を実施することで異文化を体験し、グローバルな視野を広げる。	A

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
教科	国語	【1年】現代文では漢字力と語彙力を、古典では文法・句法を中心に、基礎的力を確立させる。	計画的に漢字と古文単語の小テストを実施し、大学受験にも対応できる語彙力をつけさせる。	A	A	学年の段階に応じつつ体系的に指導を進め、大学入試に対応できる学力をつける。	
			現代文の授業において、論理的に文章を読解する姿勢を育てる。	B			
			文法と句法を段階的に学ばせ、古典に対する基礎的力を育成する。	A			
		【2年】現代文・古文・漢文のそれぞれの応用力を育成、進展させる。	各分野のテキストに年間を通して取り組み、基礎から応用へのステップアップを図る。	A	A		
			古文単語小テストを定期的実施し、古語力を高める。	B			
			古典分野においては、大学入試を意識した課題を与えることで、徐々に大学受験に対応できる学力を身につけさせる。	A			
		【3年】現代文、古文、漢文の受験に対応した学力を完成させる	受験を意識した授業の実践を心がける。	A	A		
			小論文や評論に対応した、幅広い知識を身につけさせる	A			
			知識問題についての小テストを定期的実施し、入試に対応する実践力を高める。	A			
		教科	地理歴史	授業中心主義を徹底し、学力の向上を図る。	シラバスに基づき、担当者間の連携を図りながら、計画的かつ効果的な授業展開を通じて学力の向上を図る指導を行う。		B
授業内容を精選し、基礎・基本的事項の習得を徹底させるとともに、発展的な内容を扱う授業展開を行う。	A						
他教科とのバランスを取りながら、適切な内容・分量の課題に取り組みせ、必要に応じて小テストを実施して、授業に対する理解度の確認と学習習慣の確立を図る。	B						
定期考査・校内実力テスト・校外模試の成績分析を通じて、学習内容の習得状況を的確に把握・分析して指導の改善を図り、結果を生徒へフィードバックする。	A						
教科担当者が必要に応じて個別面談・個別指導を行い、指導・助言を通じて学習効果の向上を図る。	A						
興味・関心が持てる授業に努める。	資料集など副教材の使用法を工夫し、生徒の興味・関心を喚起し、理解の進化に努める。			A	A		
	板書事項、説明内容・方法等について、教員個々のスキルアップをめざし研鑽に努める。			A			
	授業公開や教科会等を通じて、相互の指導方法について情報交換を行う。			B			
センター試験で高得点を達成するとともに、難関大学に合格できる学力をつける。	過去のセンター試験問題ならびに大学入試問題等を十分に研究し、学習指導の改善を図る。			A	A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	公民	授業中心主義を徹底し、学力の向上を図る。	シラバスに基づき、担当者間の連携を図りながら、計画的かつ効果的な授業展開を通じて学力の向上を図る指導を行う。	B	A	授業公開や教科会を通じて相互に指導方法の情報交換をおこなう必要がある。
			授業内容を精選し、基礎・基本的事項の習得を徹底させるとともに、発展的な内容を扱う授業展開を行う。	A		
			他教科とのバランスを取りながら、適切な内容・分量の課題に取り組みせ、必要に応じて小テストを実施して、授業に対する理解度の確認と学習習慣の確立を図る。	B		
			定期考査・校内実力テスト・校外模試の成績分析を通じて、学習内容の習得状況を的確に把握・分析して指導の改善を図り、結果を生徒へフィードバックする。	A		
			教科担当者が必要に応じて個別面談・個別指導を行い、指導・助言を通じて学習効果の向上を図る。	A		
		興味・関心が持てる授業に努める。	資料集など副教材の使用法を工夫し、生徒の興味・関心を喚起し、理解の進化に努める。	A	A	
			板書事項、説明内容・方法等について、教員個々のスキルアップをめざし研鑽に努める。	A		
			授業公開や教科会等を通じて、相互の指導方法について情報交換を行う。	B		
		センター試験で高得点を達成するとともに、難関大学に合格できる学力をつける。	過去のセンター試験問題ならびに大学入試問題等を十分に研究し、学習指導の改善を図る。	A	A	
		教科	数学	【1年】様々な数学的な見方考え方を学び、数学に対する関心・意欲を高め、学習習慣および高等学校数学の基礎を固める。	日々の授業においては、内容を精選し基礎の確実な理解と定着を図る。	
授業と連携した宿題を定期的に課し、家庭における学習習慣と基礎学力の確立を図る。	A					
定期的に小テスト、章末テスト等を企画し、基礎学力を評価するとともに、そこで得た情報を基に弱点の強化を行う。	B					
【2年】受験科目として科目の重要性を意識させ、きめ細かい指導の下、授業内容を確実に定着させる。	生徒の理解を高め、学習に取り組みやすいように授業展開や進度の工夫をする。			A	A	
	平常時及び長期休業中の課題への取り組みを徹底させる。			A		
	授業進度に合わせ定期的に節末テストや小テストを実施し、基礎学力向上を図る。			B		
【3年】生徒の進路実現に向け、受験に対応した学力を完成させる。	受験を意識した授業の実践に心掛ける。			A	A	
	各テストを通して、受験に向けた計画的な学習を支援していく。			A		
	各分野の問題演習を行うことにより、受験に対応できる能力を養う。			B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	理科	授業内容を深化させ、生徒の基礎学力の向上を図る。	シラバスに沿った授業展開を心がけ、担当者間のコミュニケーションを図り計画的な指導を行う。	A	B	学習習慣を確立させるとともに、学力の向上を図る。
			生徒にとって適切な内容・分量の課題を行わせることや、小テストを通して、学習習慣の確立を図る。	B		
			必要に応じ、各科目の担当者が個別の面談・指導を行い、学力の向上を図る。	B		
	興味・関心が持てる、授業展開に努める。	実験・実習をバランスよく実施し、実物に触れることにより、興味・関心を喚起し、理解の深化に努める。	A	A		
		日常現象と科学の関連を取り上げることにより、科学への興味・関心を高める。	A			
		PCを利用したシミュレーションやDVDなどの視聴覚教材などを活用し、授業への興味・関心を高める。	A			
教科	保健体育	各種の運動の合理的な実践及び相互理解・尊重の態度を育む。	自己の体力や生活に応じた体力を高めるための運動を合理的な方法で身につけさせる。	A	A	授業中における安全管理や怪我がおきたときの対応。熱中症への対策。視聴覚教材の使用。
			各種の運動の合理的な実践を通して自己の課題を見つけ、解決できる能力を身につけさせる。	A		
			各種の運動を通しての相互理解・尊重の態度を身につけさせ、コミュニケーション能力を育てる。	A		
			熱中症対策、怪我や安全管理に留意して、授業を行う。	B		
	健康に対する意識・実践力の向上	健康に対する知識や実践力を身につけさせ、明るく豊かで活力ある生活を育む態度を育てる。	A	A		
		社会生活及び各個人の生活における健康・安全管理について、課題の解決に役立つ基本的な知識を理解させる。	A			
教科	芸術	芸術への理解	芸術の歴史を学び、芸術する喜びを味わう。	A	A	生徒のグレードアップのため丁寧に授業を進めたい。
			表現技法の会得と感性を磨く	A		
			芸術を通して、自己のグレードアップをはかる。	B		
教科	外国語	【1年】英語に対する意欲及び興味・関心を高め、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4領域について基礎学力の定着を図る。	毎週小テストを実施し、基本的な語彙を身につけさせる。	A	B	・文法事項の定着が不安な面が残ったので強化が必要である。 ・リスニングを定期的に鍛えていきたい。 個別指導を早期から計画的に行いたい。 ・学年間で連携を深め、授業の改善に励みたい。
			基本的文法事項を習得させ、英文を読む力と書く力を培う。	B		
			授業や家庭学習でリスニングの指導に力を入れ、英語を聞く力を養う。	B		
			ALTとのティームティーチングを通して、話す力やコミュニケーション能力を育てる。	B		
			英検受験を奨励し、準2級および2級の合格を目指す。	A		
			ディベート活動につながる英語の力を身につけさせる。	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	外国語	【2年】基礎力の増強および応用力育成・向上に努め、生徒をより高い目標へと鼓舞する魅力的なわかる授業を展開する。	小テストを継続し、基本的な語彙を定着させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 文法事項の定着が不安な面が残ったので強化が必要である。 リスニングを定期的に鍛えていきたい。 個別指導を早期から計画的に行いたい。 学年間で連携を深め、授業の改善に励みたい。
			基本文法事項に習熟させ、英文を読む力と書く力を高める。	B		
			授業や家庭学習でリスニングの指導に力を入れ、英語を聞く力を養う。	B		
			ALTとのティームティーチングを通して、話す力やコミュニケーション能力を育てる。	A		
			英検受験を奨励し、2級および準1級の合格を目指す。	A		
			ディベート活動を実施し、英語の運用能力と思考力を身につけさせる。	A		
		【3年】生徒の希望進路の実現に向け、受験に対応した学力を完成させる。	平常の授業において、受験に対応した総合的な学力を高めさせる。	A	A	
			各テストを通して、受験に向けた計画的な学習を支援していく。	A		
			生徒の状況に応じた課外授業及び個別指導を実施する。	A		
			授業・指導法の研究に努め、平常授業の充実を図る。	B		
教科	情報	情報化社会に対する意識の徹底とモラルへの認識 課題への取り組みと解決・基礎知識 基礎的な技術操作と応用できる知識	情報化社会でのコミュニケーションの多様化の元に現状や危険性を考え安全な使用方法の指導を行う。	A	A	B
			取り組みの主旨や目的を十分に説明し、生徒一人一人が自主的に課題に取りかかれるように指導する。	B	B	
			授業はもちろん、それ以外の様々な場面にも対応できる技術の向上に努める。	B	B	
教務	SSH運営に基づいた教育課程の編成	SSHの研究成果を生かす教育課程の編成を行う。	A	A	SSHは、担当部署との連絡を密にし、円滑に運営することが出来た。 校内規定の再整備は現在すすめており、来年度に完成する予定である。	
		教育課程検討委員会と密接に連携をとり、生徒の多様な進路に対応できる教育課程の編成に努める。	A			
	円滑な教育活動の推進	校内諸規定の検討整備をすすめさらなる適正化を図る。	B	A		
		各部・各学年との連絡調整機能を強化し、教育活動の円滑化を図り教育目標の達成に努める。	A			
		授業時間確保のため、時間割を円滑に運営する。	A			
		年間を通して定期考査等の適正な計画・実施に努める。	A			
		成績処理システムの検討、再構築を図り、成績処理の効率化を図る。	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教務	地域、保護者との連携の強化	ホームページ、学校案内、ハイスクールガイド等による効果的な学校広報に努める。	A	A	
		いばらき教育月間に学校公開を行い、地域に公開する。	A		
		中学校等の訪問と充実を図り、あわせて地域との連携を深める。	A		
		生徒、保護者へのアンケートを実施し、教育活動に生かす。	A		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	登校指導による挨拶の励行、頭髪・服装の指導。	B	A	正しい制服の着方についての継続した指導を実施する。 心の教育相談体制を充実させ
	安全教育の充実	登校指導による交通安全指導、交通安全講話を通して意識を高める。	A		
	教育相談体制の確立	スクールカウンセラー等、専門家の積極的・効果的な活用。	A		
進路指導	生徒の主体的進路選択への支援	総合学習の時間や大学・企業訪問、先輩の語る仕事を聴く会、大学研究会などを通して、3年間を見通した計画的な進路指導を行う。	A	A	各種進路行事を、進路指導部と学年で連携し、さらに充実・発展させる。 利用しやすい進路情報を提供する。 教科指導力向上をめざす研修会を実施する。 難関大学対策の指導法を検討・確立する。
		進路講演会や学年集会などを通して、生徒の進路意識を高め、進路実現のために何をなすべきかを考えさせる。	A		
		生徒面談や保護者面談を通して、生徒一人ひとりの希望や適性を踏まえた親身の進路相談を行う。	A		
		進路関連資料の精選と提示の工夫に努め、生徒にとって利用しやすく、かつ、利用価値のある進路指導室にする。	B		
	生徒の希望進路実現のための支援	生徒が第一志望校に合格できるよう、授業の質をさらに高めるとともに、各種研修会を計画的に実施して、教科指導力向上に努める。	B	A	
		より適切な進路指導ができるよう模試分析会や進路検討会、出願検討会を適宜実施するとともに、進路指導部・学年・教科・生徒、それぞれの間のコミュニケーションの充実に努める。	A		
		添削指導や特別講座(課外)など、難関大学合格を目指す指導を組織的に行うとともに、難関大学入試の指導についての教員の研修を支援する。	B		
		上位層だけでなく下位層の底上げを図る取り組みを実施する。	A		
特別活動	部活動と学業の両立	クラス担任と部活動顧問間で問題のある生徒の情報を共有し、両面から指導する体制づくりを行う。	B	B	学校行事の充実化を図りたい。
		生徒達の状況を理解し、各部活動の効率化・充実化を図るよう、部活動顧問に働きかける。	B		
		各学年、進路指導部、各部顧問との連携を強化し、学校行事と部活動が円滑に連携できるように努める。	A		
	生徒会活動の活性化	生徒会役員と定期的に話し合いを持ち、学校行事の内容をより良いものにする。	A	A	
		学校行事を通して、色々な生徒達に達成感を味わわせ、生徒会活動への参加意欲を高める。	A		
	応援委員の活性化	応援委員会の活動を白龍祭や応援練習を通しアピールし、委員の人数確保と、全校生徒の応援に対する意欲を高める。	A	A	
応援の練習方法や内容を工夫し、より良い応援の方法を構築する。		A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
保健	生徒・教職員の心身の健康	学校環境の安全に留意し, 点検などを行う。	A	A	生徒達に震災への意識を持たせる。行事を精選し効率よく行う。
		保健室の効果的な運用に努める。	A		
		担任・学年・生徒指導部などと協力し, 生徒の心のケアの充実を図る。	B		
		性教育講座を通して健全な性への認識を持たせる。	A		
		避難訓練をとおして自分の身は自分で守るという意識を持たせる。	A		
		竜巻など火災や震災以外の災害にも対応できるようにする。	B		
	学習環境の整備	清掃分担を明確にし, 清掃の徹底を図る。	B	B	
		防火管理体制を充実させ, 防災避難訓練を実施し, 非常時に備える。	A		
		空調設備の適切な管理運営と快適な学習環境作りに努める	B		
渉外	PTA活動の活性化及び学校と家庭の連携強化	PTA総会や支部総会への参加率を高めるよう努める。	B	A	PTA役員の方々の負担を軽減したい。
		PTA役員会や生徒指導委員会・PTA便り編集委員会などの委員会活動を通じて, 保護者との連携強化に努める。	A		
		保護者向けの広報活動を積極的に行うとともに文化祭のPTA企画への参加率を高めるよう努める。	A		
図書	図書館の円滑な運営に努める	担当職員間で適切な業務分担を行い, 連絡を密にするとともに, 授業や課題研究などでの図書館利用の利便性の向上を図る。	A	A	図書館を利用する生徒の数の増加を目指す。
		昼休み・放課後の当番制の徹底。	A		
		蔵書の充実と利用の促進	展示レイアウトや図書選びのアドバイスにより利便性の向上を図る。		
	授業や課題研究などと連携した, 図書館利用の促進に努める。	B			
	学年や教科の推薦図書および小論文関係の図書を充実するとともに,	日			
	生徒の購入希望図書にも留意することで利用の促進を図る。	A			
	図書館便りおよびホームページによる情報発信に努める。	A			
	図書委員会活動の活性化	生徒図書委員研修会への参加による図書委員の資質向上	A	A	
		日常の係り活動の活発化(カウンター当番・図書館便りの編集・図書館環境の整備など)	A		
	各種コンクールへの参加	読書感想文・感想画などの募集および選考(教科・部活との連携して行う)	A	A	
	視聴覚機材の円滑な活用	学校行事などで放送器具の円滑な運用に努める	B	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
SSH	生涯にわたる主体的な学びの原動力である、持続的な学習意欲や知的好奇心を高め、未来への飛躍を実現するチャレンジ精神やリーダーシップを育む。	協働的な探究活動を行い、その成果を踏まえて地域の小中学生への科学講座等を行うこと、大学や研究所等の研究者と直接交流することなどを通して、学習意欲や知的好奇心を高め、チャレンジ精神やリーダーシップを育む。	A	A	初年度の反省をもとにさらに活動を充実させる。 校内においては特に、生徒の主体的な学びを支援するために、教科間の縦断的な協力体制を強化する。
	基礎的な知識・技能を確実に修得し、科学的なものの見方・論理的思考力を養い、問題を解決する能力を育成する。	協働的な探究活動やディベートの学習、教科・科目を融合した授業により、物事を多様な観点から論理的に考察し、問題を解決する力を育成する。 和算を取り入れた協働的な探究活動や、算額の講習、課題研究の発表を小中学生に行うなど地域の小中学生と交流することで、次の世代の数学への関心を高めるとともに、自らの探究活動を検証し、活動の質を高める。	B		
	日本人としてのアイデンティティーを大切にしながらも、グローバル社会で世界の人々と協働するためのコミュニケーション能力および発信力を身につける。	海外への修学旅行やサイエンスキャラバンなど、外国の人々と交流することで、日本人としてのアイデンティティーを育み、様々な価値観を学び、視野を広げ、コミュニケーション能力および発信力を高める。	A	B	
		協働的な探究活動や女性科学者との交流は、理系を選択する女子、さらには科学者を目指す女子が増えるとともに、理系分野で活躍する女性に対する男子生徒の理解を深める。	B		
	基本的な生活習慣の確立	凡事徹底(挨拶の励行、清掃の徹底、容疑指導の徹底、時間厳守(5分前行動、切替意識)、期限厳守(計画性))が図れるよう、学年全体として共通認識を持ち、常にその状況を確認しながらきめ細かな指導に取り組む。	B	B	
学習習慣の確立と基礎学力の定着	初期指導の充実を図り、授業を中心とした予習復習のサイクルが確立できるよう、授業およびホームルーム・学年集会を通して継続的な指導に取り組む。また、1年次後半には、生徒が自発的に学習に取り組めるような指導を展開する。	生徒が授業内容をしっかり定着できるよう、各教科で連携して課題の量を調整するとともに、生徒の課題への取り組みおよび定着が徹底されるように指導する。	B	B	
	学習記録簿(スタディーレコード)を活用しながら、生徒一人一人の状況に応じて適切な学習指導を行う。		A		
			B		
進路指導の充実	LHRおよび道徳の授業を中心として、進路意識が高められるように年間計画を立案し、将来の目標や職業観などを育む指導を行うとともに、2年次の文理コース選択に対して適切な指導を行う。	進路指導部と連携し、適切な時期に適切な進路情報を生徒・保護者に提供する。	A	A	
	進路指導部、SSH委員会、国際交流委員会と連携し、生徒の進路目標設定に意義のある行事を企画・実施する。		A		
			A		
心身の健康管理	生徒一人一人の心身の成長とともに、健康的な学校生活を送れるよう、保健部や保護者と連携しながら、生徒個々の問題の早期発見に努め、適切な指導を行う。	A	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第2学年	基本的生活習慣の確立	気持ちの入ったあいさつを心掛ける, 時間を守る, 清掃をテキパキ行う, 授業と休み時間の切替, 勉強と部活動の切替を明確にする等, 当たり前のこと(基本的なこと)を当たり前に行うことができるようにきめ細かな指導を学年全体で行う。	B	B	3年生としての基本的生活習慣を確立させる。生徒の希望進路実現に向け学年団の協力を密にし、それを学力向上指導、受験指導につなげていきたい。
	進路指導の充実	LHRなどを活用し, 年間計画に基づいて, 進路意識, 職業観などを育む。	A	A	
		進路指導部と連携し, 適切な進路情報を生徒と保護者に提供する。	B		
		いばらき版SH委員会と連携し, 医学部・難関理工系大学志望者に対する様々な進路行事を行う。	A		
	学習習慣の確立	家庭学習が十分になされるよう, 教科担当と学級担任が連携を図りながら, 適切な時期に適切な内容・適切な量の課題を与える。	B	B	
		スタディレコード(学習記録簿)を使い, 学習状況を担任・学年で把握し, 平日3時間, 休日5時間を目標とした家庭学習時間を確保するように根気強く指導を行う。	B		
総合学習の推進	C組は探究活動を行い, 実験・研究を通して自ら仮説を立て, 検証, 考察をする。ABDEF組はキャリア教育を推進し, 国公立大学の合格研究を行う。G組は, 設定テーマに関する研究を通して課題分析力や問題解決能力を養い, プレゼンテーション能力を養う。	A	A		
心身の健康管理	生徒が心身ともに健康な学校生活が送れるように留意し, 生徒の問題の早期発見, 早期指導に努め, 保健部や保護者と連携しながら適切な指導を行う。	A	A		
第3学年	学力の向上	授業最優先を意識させ, 質の高い考查問題を作成し, 考查で生徒の学力を鍛える。その際, 予習・授業・復習のサイクルの重要性を踏まえながら, 自ら取り組む姿勢を養う。	A	A	
		朝SHRのスタディレコード記入を習慣化させて, 生徒個々の学習状況を観察・把握し, 家庭学習時間確保の促進や個別面談等に活かす。	B		
		各教科で, 入試を意識した指導を行い, 適切な時期に, 適切な課題, 適切な指示を与えるように努め, 学年教科担当者が相互に連携をとりながら, 学習意欲の向上を図る。	A		
		定期考查・模擬試験の分析結果を授業に反映させ, 授業内容の充実を図るとともに, 受験勉強のペース・指針を生徒に示し続ける。	A		
	基本的生活習慣の確立	気持ちの入ったあいさつを心掛ける, 時間を守る, 清掃をテキパキ行う, 授業と休み時間の切替, 勉強と部活動の切替を明確にする等, 当たり前のこと(基本的なこと)を当たり前に行うことができる人間性を養う。	A	A	
		最上級生として, 後輩の模範となるように規律ある生活に努め, 生活面・部活動面において中心となって取り組むように指導する。	A		
	進路指導の充実	生徒の学習成績や適切な進路情報を, 学年団で共有し, 生徒や保護者に有効に提供できるようにする。	A	A	
		LHR, 学年集会, 講演会等を通して, 入試や志望校の研究に努め, 目標に向かって邁進する環境・雰囲気を醸成する。	A		
		生徒との面談や保護者との意思疎通を密にし, 必要に応じて学年外の職員の協力を得ながら, 適切な進路指導ができる態勢をつくる。	B		
	心身の健康管理	生徒が心身ともに健康な学校生活を送れるように留意し, 生徒の問題の早期発見, 早期指導に努め, 保健部や保護者と連携しながら適切な指導を行う。	B	B	

※評価基準:A, B, Cの3段階で評価する。 A(達成された), B(ほぼ達成された), C(達成されなかった)